

事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策Ⅱ-5-5
農山漁村の多面的機能の維持・発揮

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 農村整備課長 廣川 正英 電話番号 0852-22-5176

事務事業の名称	中山間ふるさと・水と土基金事業	
目的	(1) 対象	県民等
	(2) 意図	県民等が中山間地域等の農業や農村に関する関心を高め、農地等の保全活動に参加する。
事業概要	地域の活力低下が顕著な中山間地域において、地域住民活動の活性化並びに都市住民等を巻き込んだ保全活動への参加促進を図るため、中山間ふるさと・水と土基金(前年度基金残高の3%以内)を活用し、効果的に農地等の利活用及び保全整備等の促進に対する支援を行う。 ・しまね棚田ネットワークの構築 ・「しまねの農村景観フォトコンテスト」やコンテスト入賞作品の巡回作品展 ・防草、抑草及び水路目地補修など条件の悪い中山間地における効率的な農地利用のための実証実験	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	県民の理解度向上	目標値		14.0	14.0	14.0	14.0	回
	式・定義	代替：イベント等実施回数	取組目標値						
			実績値	14.0	15.0	14.0			
			達成率	-	107.2	100.0	-	-	
2	指標名		目標値						
	式・定義		取組目標値						
			実績値						
			達成率	-	-	-	-	-	

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b)(千円)	23,957	21,751
うち一般財源(千円)	0	0

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

しまねの農村景観フォトコンテスト巡回作品展において前年(11回)を上回る作品展(13回)を行い、県民等へのPRに努めたが、応募総数は前年度の675点から518点へと減少した。
 「水路漏水補修工法実証実験」業務について、実証実験に併せて過去の実証実験箇所の経年変化等に関する検証を行った。

6. 成果があったこと(改善されたこと)

しまねの農村景観フォトコンテスト巡回作品展では、七類港ターミナル、邑南町のショッピングセンターなど集客と地域バランスを考慮して開催した。
 水路補修工法実証実験では、その実施状況を農業者を対象とした技術研修に使用するとともにホームページで公開を行い、新たな技術の普及に努めている。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」

しまねの農村景観フォトコンテストについて、応募者、応募作品共に減少傾向にあり、応募者が東部に集中し西部及び隠岐からの応募が少ない。
 農業農村への関心の高まりや棚田保全に関するボランティアの増加になかなかつながらない。

②困っている状況が発生している「原因」

しまねのフォトコンテストについては、西部及び隠岐地域におけるPR不足。
 農業・農村や棚田における交流活動において、活動に参加したくなる工夫が行われていない。

③原因を解消するための「課題」

しまねの農村景観フォトコンテスト入賞作品巡回作品展については、今以上に県内バランスよく開催できるように検討するとともに、特に西部及び隠岐での取り組みを強化する。
 棚田の保全や活用に向けた活動について、都市住民の関心を高める。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

しまねの農村景観フォトコンテストについては、ホームページやプレスリリース以外に、マスコミ媒体を有効に活用しイベントのPRを図る。巡回作品展の開催場所を人が集まる施設や未開催地について実施し、PRを図る。また、第20回記念コンテスト時に特別審査委員に迎えた著名な委員について、今後も引き続き依頼する。
 棚田保全活動においては、各棚田毎に棚田カード等を作成して農業農村・棚田への関心を高め農村ボランティア等を確保する。